

公立大学法人埼玉県立大学 令和3年度業務実績報告書の概要

新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中においても、遠隔授業を活用しながら対面授業を積極的に取り入れて学生とのコミュニケーションを図り、質の高い教育の実施に努めた。また、地域包括ケアシステムの構築推進を目的とした研究や地域の保健・医療・福祉人材の資質向上のための講座等に積極的に取り組んだ。

1 自己評価結果一覧

| 大項目 | S (年度計画を上回って実施) | A (年度計画を十分に実施) | B (年度計画を十分に実施できず) | C (年度計画を実施せず) | 計 | S・Aの比率 |
|----------------|--------------------|-------------------|----------------------|------------------|-----|--------|
| I 教育・研究等の質の向上 | 4 | 74 | 1 | 0 | 79 | 98.7% |
| 1 教育 | 0 | 31 | 0 | 0 | 31 | 100.0% |
| 2 学生支援 | 2 | 22 | 0 | 0 | 24 | 100.0% |
| 3 研究 | 1 | 14 | 0 | 0 | 15 | 100.0% |
| 4 地域貢献産学連携 | 1 | 7 | 1 | 0 | 9 | 88.9% |
| II 業務運営の改善・効率化 | 0 | 10 | 0 | 0 | 10 | 100.0% |
| III 財務内容の改善 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 100.0% |
| IV 自己点検・評価 | 0 | 5 | 0 | 0 | 5 | 100.0% |
| V その他 | 0 | 12 | 1 | 0 | 13 | 92.3% |
| 合計 | 4 | 107 | 2 | 0 | 113 | 98.2% |

| | |
|--|---|
| <p>年度計画を上回って実施している項目 (S評価)</p> <p>○コロナ禍における支援情報があった際は迅速に周知するとともに、家計急変時の経済支援情報が行き渡るよう工夫する。 →情報を周知だけでなく、コロナ陽性となった一人暮らし学生への食糧支援など、応急的な生活支援を行った。</p> <p>○キャリアカウンセラーによる相談、学生担任教員等による面談により、就職活動状況を把握し、学生の特性や希望に合った支援を連携して行う。 →就職活動が厳しいコロナ禍において、過去2番目に高い進路決定率となった。</p> <p>○科研費応募への支援をするとともに、採択率向上や大型の外部研究費の獲得に向けて取り組む。 →開学以来過去最高となる82件の採択となった。</p> <p>○自治体や保健医療福祉施設、団体等への講師派遣(260回以上)及び審議会、委員会等への教員派遣(170回以上)を行う。 →講師派遣290回、審議会等への教員派遣230回を実施。</p> | <p>年度計画を十分に実施していない項目 (B評価)</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の影響を勘案しながら、学生の安全確保を前提に、国際交流事業を実施する。 →外国との往来が困難となり、海外協定校との相互交流が実施不可能となったため。代替として、オンラインによるセミナー等に参加した。</p> <p>○適切な管理・保全のための施設・設備改修計画を策定し、定期的な点検及び整備を実施する。 →新型コロナウイルス感染症の影響により、空調設備工事の2件で部品の納期遅延があり、令和4年度に繰越した。</p> |
|--|---|

2 中期目標4つの目標の達成状況

| 指標 | 進路決定率100% (事業年度毎に達成) | 県内就職率60% (R3年度までに達成) | 科研費採択65件 (事業年度毎に達成) | 自主財源比率44% (事業年度毎に達成) |
|-----------|--|-------------------------|------------------------|-------------------------|
| 実績 | 99.0% | 56.4% | 82件 | 43.4% |
| ○進路決定率… | 短期雇用派遣社員に従事した者等4名を除き、全学生の進路が決定した。その結果、過去2番目の進路決定率となり、目標値をほぼ達成した。今後も指標を達成できるようキャリア形成支援に取り組む。 | | | |
| ○県内就職率… | 県外出身者の県内就職が増えたことや、都内への就職率が低下したこと等により、前年よりも3.3%上昇したが、第2期中期目標の60%達成には至らなかった。今後も、県内施設の学内就職説明会を引き続き実施する他、県立病院等の指定校推薦制度の活用を進める。 | | | |
| ○科研費採択件数… | 継続研究や若手研究者・大学院研究員の採択件数増加により目標値を達成している。今後は採択率の向上や大型種目の獲得に向けた取組を進める。 | | | |
| ○自主財源比率… | 施設貸付停止による利用料の減などにより目標値に対して未達となった。外部資金の獲得等に向けた取組を進めていく。 | | | |

3 令和3年度の主な取組 ※●は重点事項

I 大学の教育研究等の質の向上に関する取組

1 教育

- 高等教育開発センターにおいて、学修成果を把握する手法の導入について検討を行うなど教育プログラムの改善のための取組を進めた。
- 新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、遠隔授業を適切に活用することで、最適な授業実施方法を選択し、学年暦どおりに教育を実施した。
- オンラインを活用することで実習施設との会議を継続して実施し、連携強化の取組を行った。また、感染拡大を受けて臨地実習が中止となった場合でも、実習施設の職員に遠隔で講義をしていただくなど、質を担保した教育の実施と実習施設との連携強化を図った。

2 学生への支援

- 学生生活等の情報交換のため、学年間交流をオンライン等で36回開催し、延べ1,985名が参加した。
- 学生担任教員等が、全学生に対し面談の機会を設け、学生の現状把握と指導を行った。
- キャリアカウンセラーによるキャリア相談について、オンラインと対面を平行して実施し、学生の相談に対応した。(相談実績:2,153件(R2)→2,175件(R3))
- キャリア相談や就職支援講座など、就職支援に関する取組を在学生や保護者、受験生にわかりやすく伝えるための動画を作成し、ホームページ上で公開した。

3 研究

- 包括的ケアラー支援における支援者間連携に関する研究等プロジェクト研究を4件(新規2件・継続2件)を進めた。
- 地域包括ケアシステム構築を推進するため、「シンポジウム2021」、「地域包括ケア推進セミナー」、「地域包括ケアを推進するためのネットワーク会議」を開催した。

4 地域貢献、産学官連携及び国際交流

- 地域住民向けの一般公開講座、保健医療福祉従事者を対象とした専門職講座や高校生向け出張講座をオンライン等を活用して開催した。
- 企業等からの外部資金を受け、共同研究11件、受託研究5件実施した。
- 学術研究、教育、社会貢献活動等の推進に資することを目的として埼玉大学と包括連携協定を締結した。

II～V 業務運営・財務内容等の改善及び効率化に関する取組

- 新たに学生調査を実施するとともに、導入したIRデータを活用し、大学運営等に資する分析を実施した。また、学内情報を分かりやすく伝えるためFACTBOOKを作成し、ホームページで公開した。
- 研究開発センターを中心に外部資金獲得に取り組んだ。また、科研費大型種目獲得に向け、学内研究費の配分基準の見直しを行った。
- 第2期中期目標期間における課題・成果を分析し、第3期中期目標を達成するための第3期中期計画を策定した。
- オンライン会議の実施やペーパーレス化による事務の効率化・合理化に取り組んだ。また、ダイバーシティの推進に取り組んだ。